



■置かれた場所で…

以前『置かれた場所で咲きなさい』（渡辺和子著 2017年 幻冬舎）という本がベストセラーになりました。「置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。時間の使い方は、そのままいのちの使い方です。自らが咲く努力を忘れてはなりません。雨の日、風の日、どうしても咲けないときは根を下へ下へと伸ばしましょう。次に咲く花がより大きく、美しいものとなるように。心迷うすべての人へ向けた、国民的ベストセラー。」（幻冬舎HPより）という内容です。

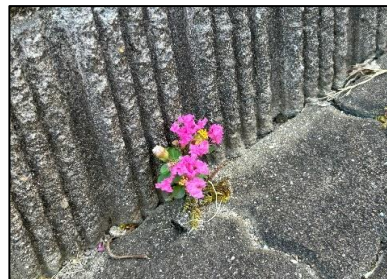
ついその本のことを思い出しました。私の自宅と隣家、それぞれの玄関付近のコンクリートの隙間に“置かれた場所で”咲いている花を見つけました。自宅に咲いているのはキングヨソウという花で、昨年鉢植えをしていた苗から種が落ちたものだと思います。隣家で花を咲かせているのはサルスベリです。サルスベリは挿し木で増やすのが一般的で、種はあまり馴染みがないように思われますが、夏の終わりに実を結び、実の中にある種は風によって運ばれやすい形をしています。隣家の庭先にはサルスベリの木が植えてあり、そこから種が風によって運ばれたものであると思われる。

植物は、繁殖戦略として風や動物に運ばせるなどあらゆる方法で種を拡散させていきます。その戦略としては“あり”だと思いますが、そこに落とされた種の身になって考えて見れば「もっといいところに落としてよ」という感じでしょうか。直面する不遇な境遇を恨めしく思う気持ちも湧いてきそうです。よく耳にする“～ガチャ”と言えるかもしれません。しかし、見た目はコンクリートに覆われた厳しい条件下のように思えますが、コンクリートの下には土があり、考えようによっては他の雑草に邪魔されない好条件といえるのかもしれない。しかも、そのような一見厳しい条件のもとで“頑張って”花を咲かせていると、周囲から応援してもらえることもあるでしょう。私も毎日コンクリートの隙間に水やりをしています。

今置かれている状況をネガティブにばかり考えるのではなく、真摯に向き合いながら少しでもポジティブにとらえていけば、案外打開策が見い出せるかもしれません。そこに咲く花は、逆境であればあるほど美しく見えるものです。そして、そんなあなたを応援してくれる人が必ずいるはずです。ただ、本当につらい時は我慢せず誰かに頼る勇気も忘れずにね(^ ^)/



☞自宅のキングヨソウ



☞隣家のサルスベリ